



～ SEQ を活用して意識し、反省し、改善する～ 「社会人基礎力」を意識することが大切です

名古屋工業大学 キャリアサポートオフィス オフィス長
山下 啓司 先生

保護者の皆様、この度はお子様の名古屋工業大学合格、誠にありがとうございます。これまでのご家族のご支援、そして特にお母様のご心労、本当にご苦労様でした。でも、もうここからは心配ご無用です。名工大に入れていただいたからには、我々名工大の教員・職員・生協職員にお任せ下さい。

皆様もご存知の通り、この工業の集積した東海地区における名工大の評価は、特に就職面においては磐石のものです。ただし、リーマンショック時に企業採用に染み付いた厳選採用の風潮は相変わらずで、名工大生といえども就活生の勝敗は二極化しております。

それでは一体何をすればいいのでしょうか？自己分析・企業研究・エントリーシート対策、面接対策、それぞれ就活にはとても大事なものです。でもそれだけでは付け焼き刃にしかありません。そんなことは就活の時期にやれば良いことで、それよりも普段の大学生活を如何に過ごすかが大事なのです。大学の授業で教養と専門を学ぶこと、そして部活、アルバイト、研究室生活で社会人として求められる力を身に付けること、これこそが就職に向けての、いや就職などという入口の些細なことではなく、これから長く続く彼達の人生そのものにおいてとても大切なことなのです。では、普通に授業に出て、アルバイトをしていれば良いのでしょうか？いえ、そんなことでは完全に出遅れてしまいます。普段の生活の中で社会に求められる力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「人と協調する力」に代表される「社会人基礎力」を意識して反省し、改善することを続けることが一番大事なのです。その反省する評価基準に SEQ があります。

皆様は SEQ (Student Emotional Intelligence Quotient) をご存知でしょうか？ IQ (Intelligence Quotient) は良くご存知でしょうが、Intelligence (知能) ではなく Emotion (感情に基づく行動量) を評価する手法です。この評価が自身の社会人基礎力を向上させるのに必要なチェック機能なのです。キャリアサポートオフィスでは本学におけるキャリア教育にもこの SEQ を取り入れています。平成 19 年に文科省に採択された「キャリア教育推進プロジェクト」で設置したキャリアサポートオフィスが中心となり、正課科目「キャリアデザイン」が開講されました。「自己分析」「企業研究」「そのマッチング」といった擬似就活体験をグループワークでこなすことにより、自身の社会人基礎力を醸成させる授業です。この授業では先の SEQ を効果的に活用しております。授業開始時に受診させ、授業終了とそのあとに続くインターンシップを経験させた夏休みの最後に再度受診させ、彼達の行動量の変化を意識させることができます。

この結果より、授業だけではなく彼達の大学生活そのものの中に「社会人基礎力」を意識させ、評価・改善させる手法 SEQ を取り入れることができると考えました。即ち、大学生活の初めに SEQ を受診し自身の行動量を定量し、その後、生活が一変する大学生活を経験したところで 2 回目を、さらに大学生活に慣れた 2 年生の後半に 3 回目を、そして前述のキャリアデザインを受講 (しなくとも)、インターンシップの経験の前後に 4・5 回目を、最後に研究室という小社会を経験する前後や卒業間近に 6 回目の受診をさせるのです。これら 6 回の SEQ の受診は自身の行動量の変化を定量的に評価するだけでなく、これから社会に出て行くにあたって、自分の売りが何であり、足りないところは何なのかを認識する上で大変有効な評価手法であると考えております。

この様な経緯で本学キャリアサポートオフィス長として、この SEQ の 6 回がパックされた生協さんの【CLD 講座】を、これから入学してこられる学生諸君のキャリア形成における大きな武器として手元においてもらいたいと考えているところです。